

財務省が発表した4月の鉄鋼貿易統計によると、輸出（全鉄鋼）は前年同月比18.1%増の361万トンで、6カ月連続で増加し、4月としては2010年の347万トンを超え過去最高を更新した。契約時点の2月前後の市況好転、円安進行などを受けて高炉メーカーは自動車生産などが好調な東南アジアを筆頭にほぼ全地域に増加した。一方、輸入は同2.3%減の59万6,700トンと7カ月連続の減少となった。海外市況は中国の供給過剰、輸出増加などの影響から薄板類などで下落気味だが、円安が進んでいることもあり、当面の間輸出堅調、輸入減少の傾向が続くとみられる。

地域別輸出では、ASEAN向けが112万1,000トン（前年同月比27.1%増）となり12カ月連続、韓国・台湾などアジアNIE's向けは110万5,000トン（同15.0%増）で6カ月連続の増加となった。中国向けは56万4,000トン（同17.6%増）となり、尖閣諸島国有化前の水準に回復した。その他地域では中東向けが11万5,000トン（同17.6%増）で4カ月ぶり、米国向けは21万3,000トン（同12.3%増）で3カ月ぶりに増加に転じた。地域別輸入では、アジアNIE'sからが37万9,000トン（同0.7%増）、中国からは8万5,000トン（14.0%減）だった。

◆4～6月期粗鋼生産計画、2,700万トン台

経済産業省が発表した鉄鋼各社の2013年度第1四半期（4～6月）生産計画の集計結果によると、前期実績見込み比3.6%増の2,757万9,000トンと2四半期連続で増加し、3期ぶりに2,700万トン台に回復する。先月に同省が発表した需要見通し（2,638万トン）に比して約120万トン上振れしたが、半製品在庫の積み増し、建設用鋼材の需要が想定以上に増加する見込みとなり、需要見通しを大幅に上回る生産計画となった。鋼材生産は普通鋼が前期比2.1%増の1,896万8,000トン、特殊鋼が同0.3%減の470万8,000トン、合計で1.6%増の2,367万5,000トンとなる。普通鋼鋼材の国内向けは高炉メーカーが自動車向けや造船向けの需要減から前期比を若干下回るが、電炉メーカーが建設向け需要の増加により上昇し、合計で前期比2.5%増の1,185万8,000トンとなる。普通鋼鋼材の輸出向けは中国の日系自動車メーカーの生産回復の影響などから同0.8%増の710万9,000トンと見込んでいる。特殊鋼の国内向けは建設機械用の需要増などから同0.7%増の298万7,000トンと2期連続の増、輸出向けは高抗張力鋼の減少などから同2.1%減の172万トンと2期ぶりに減少する。

◆鉄鋼各社収益低迷、2013年3月期決算

新日鉄住金、JFEホールディングス、神戸製鋼所の2013年3月期の業績が発表された。市況低迷による鋼材販価の下落に加え、在庫評価差などが響き、主力となる鉄鋼事業の不振が目立った。連結経常利益は新日鉄住金が766億円（前期比46.2%減）、JFEHDが522億円（同1.4%減）、神鋼が181億円の赤字と低迷した。今期の経常利益見通しは新日鉄住金とJFEは未定としたものの、神鋼は経常益450億円と黒字転換を見込んでいる。

トピー工業、JFE条鋼、共英製鋼、東京製鉄、合同製鉄、中山製鋼所など普通鋼電炉16社の前期決算は、販売の下落で11社が減収、下期には主原料の鉄スクラップ価格が大幅に上昇したことが響いて6社が経常赤字となり、8社が経常減益とおおむね厳しい決算となった。今期の経常見通しでは4社が経常黒字化を見込むほか、5社が経常増益を予想し、復興関連を含め下期の販売量増加が収益改善に寄与する見通しとした。

大同特殊鋼、愛知製鋼、山陽特殊製鋼など特殊鋼専業5社の前期決算は軒並み収益悪化を余儀なくされた。鍛造品の収益が改善した愛知製鋼だけが前期並みの経常利益を確保し

た以外は、日系自動車販売がエコカー補助金の終了や日中関係悪化により落ち込んだことに加え、建設機械・産業機械向けも不振が続いた。鉄スクラップなどの原料価格は下落したが、販売価格がそれ以上に下がったことでマージンも悪化した。

新日鉄住金ステンレス、日新製鋼ホールディングス、日本冶金工業、日本金属のステンレス専業4社の前期決算は、全社が在庫評価損、販売価格下落の影響で経常赤字となった。今期は自動車や住宅関連の需要増加で、下期には大幅な回復を見込んでいる。

表-1 高炉大手の2013年3月期連結業績

	売上高 (億円)	経常損益 (億円)	純損益 (億円)	ROS (%)	粗鋼生産 (万トン)	鋼材平均 単価(円)
新日鉄住金	43,899 (7.3)	769 (△46.2)	△1,245 (-)	1.7	4,355 (4,292)	80,100
JFEホールディングス	31,891 (0.7)	522 (△1.4)	395 (-)	1.6	2,797 (2,690)	70,600
神戸製鋼所	16,855 (△9.6)	△181 (-)	△269 (-)	-	701 (716)	77,200

(カッコ内は前期比増減率または前期実績、△は源または赤字)

(注1) 新日鉄住金の上期実績は旧新日鉄のみ。旧住金の上期実績を単純合算した場合の経常利益は877億円

(注2) 粗鋼は単独(新日鉄住金は上期実績・前期実績が旧2社の単純合算、JFEはJFEスチール単独)

(注3) 平均単価は単独(新日鉄住金は上期実績が旧2社の加重平均)

◆JFE スチール、タイで CGL 稼働

JFE スチールは、タイで南東部のラヨン県で新設していた自動車用溶融亜鉛めっきライン(CGL、生産能力40万トン)の稼働開始を発表した。今後自動車メーカーにサンプル出荷を行い、アプルーバルを経た上で本格的に営業生産を開始する。タイ初の自動車用CGLで、新ラインはGA(合金化溶融亜鉛めっき鋼板)の生産に特化し、原板は日本からの輸出を継続する。タイは既に多くの自動車会社が生産・輸出拠点を構える東南アジア最大の自動車生産国で2012年の生産は過去最大の245万台だった。今後も自動車会社の生産能力の増強、工場新設が計画されているため、自動車用高級鋼板需要の増加が見込まれている。

◆4月世界粗鋼生産、2カ月ぶり前月比減

世界鉄鋼協会(WSA)が発表した4月の世界(63カ国)粗鋼生産は、前月比1.8%減の1億3,211万トンと2カ月ぶりに減少した。前年同月比では1.2%増で7カ月連続して前年水準を上回った。4月の世界の日産量は前月比1.5%増で2カ月ぶりに増加し、操業率は80.0%と前月比0.9ポイント上昇した。中国の日産量は前月比2.3%増、中国以外は0.1%増とそれぞれ2カ月ぶりに増加した、新興国の日産量は、韓国が前月比0.2%増と2カ月連続で増え、インドは0.1%増、ブラジルは5.9%増と増加した。先進国では、EU27が0.9%増、北米は1.7%増といずれも2カ月ぶりに増加した。日本は0.2%増ながら4カ月連続で増加した。1~4月の世界累計生産は5億2,128万トンと7カ月連続で前年同期比1.9%増、その内中国は2億5,815万トン(同8.4%増)で、全体の49%強を占めた。 □